

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2790900084		
法人名	社会福祉法人 香西会		
事業所名	グループホーム ティアラ		
所在地	高槻市大冠町2丁目19番1号		
自己評価作成日	平成 24年 1月 30日	評価結果市町村受理日	平成 24年 3月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2790900084&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaikokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2790900084&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 2月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高槻市の中でも閑静な地域に位置し、広い窓からは式折々の風景を眺めることができます。大きな窓やテラスを活用して、花鳥風月をご利用者様と共に楽しんでいきます。犬の散歩の時だけでなく、職員の出勤・退勤時にも地域の方から声をかけて頂けるようになり、地域とのつながりが深まっていることを感じています。定期的に来て下さるボランティアさんの数は益々ふえ、ご利用者様の楽しみの多様化が図れています。小規模多機能のご利用者様とも交流する場を設け、画一的にならない工夫をしています。ご家族の面会の機会も非常に多く、プランにもご家族やご本人の意向を十分に反映させることができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立後30年近い歴史を持つ社会福祉法人が、平成20年5月に設立したグループホームです。同ホームは隣接して同時期に開設した小規模多機能ホームと密接に連携した運営を行い、短期間で地域における存在感を高めています。当ホーム運営推進会議には自治会長がメンバーとして参加され、地域連携の大きな力となっています。また、ホームで行う防災避難訓練には民生委員の参加を得るなど、地域との協力体制作りに取り組んでいます。家族が熱心でホームに来られることも多く、利用者への対応についても相談しながら進めることができ、利用者は安心して過ごされています。ホームでは柴犬を飼育し、愛犬として利用者にかわいがられており、セラピー犬同様の役割を果たしています。管理者は職員の育成に力を入れ、さらに利用者サービスの向上を目指しています。職員の定着率が良く、接遇や介護技術の実践力を高めるための同法人本部のバックアップもしっかりしており、安定したサービス提供が期待できるホームです。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業開始前に、職員同士で話し合い作成した理念を掲げ、みやすい場所に掲示して常に共有を図っています。また新人研修時に理念に対する教育を職員が交代で行い、常に意識を持てるようにしています。毎年実施する基礎研修で、理念の実践について振り返りを行っている。ご利用者のプランに取り入れ、ケアを実践しています。	「あなたが主役の生き生き生活 家族と歩む安心ケア 誰もがくつろげるほのぼの縁側」を理念としています。職員は理念を「グループホームティアラはご利用様が住み慣れた地域の中で、いきいきとその方らしい生活が営めるように支援します。また、ご家族の思いをうけとめ介護などのご相談にも応じます。ご利用様とご家族の笑顔をはぐくみ、地域の方々とあたたかい交流ができる、陽だまりの“縁側”のようなホームにしたい…それが私たちティアラの願いです」と分かりやすく具体化して、玄関等ホーム内に掲示し、共有しています。管理者は、同法人の新人研修や基礎研修で理念に対する職員の理解を深め、実践力を育成しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>利用者との外出の際には、気軽にあいさつを交わしていただける間柄になってきました。地域老人会の演芸大会には招待状を頂き、老人会のカラオケ大会には「またおいでや」と声をかけていただけます。近所の公園に散歩に来られる方も、「トイレを使わせてほしい」「水を一杯ください」など、気軽に立ち寄って頂けるようにもなりました。職員の通勤時にも気軽に声をかけて頂きます。職員や利用者を地域の一人として認識していただけるようになったと感じます。ほかに、地域の「冠文化展」にもご利用者の作品を出品させていただいたり、小学校の運動会に招いていただいたり、ティアラからのアプローチとしてはティアラの夏祭りに地域の方を招待して楽しんでいただいたりしています。地域の方から、「柚子湯に使ってください」と柚子をいただいたり、季節のお花を頂いたりすることも増えてきました。</p> <p>今後は、地域の保育園や幼稚園など、小さいお子さんと高齢者とのかわりの場が設けられないか検討したいと考えています。</p>	<p>自治会長がホームの運営推進会議に出席し、地域連携の大きな力になっています。利用者には町会行事への参加はもちろん、老人会のカラオケ、小学校の運動会、中学校ブラスバンド部との交流、地域で催される文化展への作品展示など、地域住民との交流の場を多く設けています。また、地域からボランティアが来訪され傾聴ボランティアをはじめ、押し花・フラワーアレンジ、バルーンリハビリ、音楽療法、ハーモニカ・三味線演奏、折り紙等々の支援を受けています。ホームに親しみを持ってきて来訪される方も増え、気軽に立ち寄られる住民もおられます。ホーム主催の夏祭りを催して地域住民を招待し交流する機会も持っています。地域の清掃に参加したり、独居高齢者の集いで介護保険の説明をしたりして地域貢献にも努めています。ホームは閑静な住宅街、田園風景が広がる地域にあり、近隣からの利用者への理解も深まっており、安心して戸外に出かけられる関係を築いています。</p>	<p>今後はさらに地域との付き合いを深め、地域に貢献できるホームへと発展するように取り組む予定です。具体的には近隣の保育園や幼稚園の子どもたちと利用者が定期的に交流の機会を持てるように取り組む予定です。また、地域で高齢者を介護されている家族に、介護について学んでもらう機会を作りたいと考えています。さらに認知症の対応方法、高齢者のための口腔ケアについて、おむつや福祉用具の選び方など、テーマを決めて講演会や研修会を行いたいと考えています。取り組みの具体化については、運営推進会議で相談しながら進める予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の公園や墓の掃除に職員が参加しています。介護保険の施設であることを強みに、独居老人の集いで介護保険の説明を行っています。また、季節の行事や記念行事には地域の方や地元中学校のブラスバンド部に参加頂いて認知症高齢者とふれあい、理解していただく場を設けています。</p> <p>クリスマスイルミネーションは年々アイテムを増やして、夜道を明るく照らしています。犬の散歩も地域の方々とのかけ橋となっています。今後の目標として、地域の方への介護に関する研修会などを行えればと考えています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者およびその家族の参加が得られており、地域と利用者の関係作りに役立ててもらうことができます。高槻市消防署の予防課からも参加いただき、市内の火災発生の現況や防災の方法、避難には地域の協力が欠かせないことなどを参加者にお話いただくことができました。運営推進会議を通じて、近隣の民生委員さんに消防訓練に参加頂くことができました。	運営推進会議は規則を定め、年6回開催しています。構成メンバーは自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者代表とその家族、ホーム管理者及び職員です。議題ではホームでの日常生活の様子や行事予定及び活動報告、職員研修報告、地域高齢者への支援、高齢者ケアについての地域向け研修会・勉強会の取り組み、地域高齢者の困りごとへの支援について等が出され、意見交換をしています。自治会長からは「地域で講演会や研修会を行う際に、公民館が空いている時はいつでも使って下さい」と協力的な発言を得ています。会議で出された意見や助言等はホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業活動の中から発生した質問、疑問については常に市町村担当者に相談し、問題提起をおこなうことから、市町村と足並みをそろえてニーズに対応できるようはかっています。	市の担当者とは電話で相談し、情報交換をする機会が多くあります。また、詳細な内容についての報告や、相談がある場合には、市の窓口に出向いて相談するようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「香西会は身体拘束・虐待をしないことを誓います」と誓いのことばを掲げ、新人研修や内部研修(基礎研修)の実施により徹底して身体拘束をしない介護に取り組んでいます。出入り口には施錠せず利用者が自由に移動できるようにしている為、安全に対しては職員の連携教育により確保に努めています。	重要事項説明書に「身体拘束等の禁止」を明記しています。職員は「身体拘束・虐待をしないことを誓います」と誓約し、身体拘束をしない介護をしています。管理者は、新人研修や基礎研修を実施し、職員の育成をしています。日中はホームへの出入り口には施錠せず、利用者が自由に出入りできるようにしています。利用者の安全確保については職員間で徹底して、協力しあっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修で実施しています。また、現職員に対しても、集団研修及び定期的な内部研修(基礎研修)の実施や新人教育時の講師を行うことで継続的な啓発に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	かつて利用者の中に成年後見制度を活用している方がおられたことで、後見人選定の過程や、後見人がついた時に失われる本人の権利などを実地で学ぶことができました。後見人本人と話すことにより権利擁護に対する理解を深めることができましたと考えます。改めて勉強会などの場も持ちたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者と契約を締結・解約する際には丁寧な説明を行い、疑問点には全てこたえ、納得の上契約・解約頂くようにしています。利用開始後に発生した疑問についても遠慮なく質問するよう必ず伝えていきます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は利用者とその家族を固定せずに、交代で参加してもらえ、利用者からの意見が偏ったものにならないよう工夫しています。家族が意見を言いやすいようこまめな連絡を行い、利用者ノートを作り、家族からの意見や質問が職員に周知できる体制をとり、毎日のミーティングの場でも共有するよう努めています。毎月、ご利用料のお知らせをする際には前月の本人の様子やトピックスを書いた手紙を添付し、定期的な報告を行っています。消耗品の購入をご家族に依頼する時にも、事務的な会話にとどめず、様子を伝えたりご家族の体調をお尋ねしたり、ご意見を伺ったりしています。電話を切る際には「何かあればいつでも電話してください」と付け加えるようにしています。さらに、入口には意見収集箱を設けています。	利用者とその家族は、運営推進会議に出席して発言する機会を持っています。また、家族は職員からの電話を受けたり、ホームへ面会に行き、職員と面談したりする際に、希望や意見を出す機会が多くあります。必要時には利用者や家族はケアカンファレンスに参加し、意向を示して話し合いをすることができます。利用者・家族の意見や要望は職員が利用者ノートに記載して共有し、支援に活かしています。ホーム玄関入り口には誰でも投函できる意見収集箱を設置しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の全体会議を通じて管理者と開設者が意見を交換する場を設け、それをティアラ会議にて各主任に伝える双方向の仕組みをとっています。管理者は他職員との意見交換を日常的に行えるよう環境整備に努めています。日常的なケアや対話の中から、職員のアイデアを拾い、開設者に相談できる体制を整えています。協議書、小額物品購入伺、稟議書などの書式が統一され、さらに現場からの意向を本部に伝えやすくなりました。	管理者は日常的に職員の意見を聴取し、さらに職員アンケートを実施して意見を集約しています。新たな意見や提案があれば会議等で取り上げ業務の改善に繋げています。また職員会議で一致した提案等については、法人の全体会議で意見反映したり、法人本部へ相談したりして、職員の提案等がホーム運営に反映されるように努めています。研修についても職員の希望に添えるように取り組んでいます。	管理者は職員の学ぶ意欲を活かしスキルアップを図ることで、さらなる利用者サービスの向上を目指しています。外部研修を活用し周知するために、職員が習得した研修内容を発表会形式で報告するなど、より効果的な方法を検討しています。今後は取り組みの成果が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の見直しや、キャリアアップ体制の実施を行う方向で検討を進めています。職員が、資格取得のための研修が施設の補助で受けられるように支援しています。キャリアパス制度の導入にむけて検討を進めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>            代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画を作成し、資格取得に向けた体制をつくっており、スキルアップを奨励しています。職員から行きたい研修を管理者に相談できるように常に研修の情報を職員入口に掲示しています。管理者はすべての職員が平等に研修を受けられるように配慮しています。研修に行った職員は研修報告書を作成し、内容をすべての職員に周知できる体制をとっています。</p>		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b>            代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市町村が行う研修会やケアマネ連絡会に参加しています。            今後は市内の小規模多機能ホームとの交流ができないか検討しています。            市内に新設されたグループホームから、開設時のお祭りや餅つき行事に招いていただいたので、このつながりを大切にしていきたいと思います。こんどは、ティアラの公開行事に他のグループホームの方々を招待できないかと考えています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、家族や担当ケアマネージャーからの相談受付だけでなく、必ず本人と面談し、家族の意向と本人の意向の調整をはかりながら本人が納得してサービスを受けられるよう努力しています。また、ケアマネージャー以外のスタッフも面接に同行し、医療管理が必要な利用者には看護師も面談に参加しています。収集した情報は、ご本人入居前に往診医にも届け、ご家族・ご本人が安心してグループホームでの生活を開始できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からは、本人の耳には入れたくない事情などの相談もあるため、その都度個別対応するなどの配慮をしています。家族と本人との信頼関係が悪化しないよう、本人への説明内容なども充分配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前にご本人やご家族と面談する際には出来る限り二人以上で面談し、その時希望している支援が何なのか多角的に質問や意見聴取ができるようにしています。ご本人利用前に面談した内容を職員に周知し、不足している情報などを挙げてもらい、情報に肉付けをするようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事したりレクリエーションをしながら、お互いが双方向的な関係であることを意識できる空間を大切にしています。その人らしさを見つけ、生活の中で役割を担ってもらうと同時に、利用者ノートの活用により職員に周知徹底できるようにしています。一人ひとりが持つておられる能力を発揮していただき、どんなに小さなことでもご本人の努力に対して感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。介護度が上がった方については、「話せる」「笑える」といった力も評価し、必ず対話したり笑顔を引き出す努力をしています。重度の方については「食べる」力を活かしていただき、少しでも独力のできることを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊をされるご家族には「利用者ノート」や「連絡帳」を設けることにより、外泊時の変化をきめ細かく伝え、流れとしての本人の生活を家族とともに支援しようと努めています。毎月請求書と同時に一か月のご利用者の様子を報告しています。ご家族が来所された時には声をかけ、現状の報告と同時にご家族からのご意見や要望をお聞きするようにしています。病院への受診の協力もご家族から得られています。ご家族の面会は比較的多いと感じており、気軽に出入りしていただけるグループホームになっていると考えます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には、面会や見学はいつでも可能であることを伝え、親類や友人が訪ねて来てもらえるようにしています。個室が比較的大きいことを活かして、ご本人のお部屋に親戚一同が集まられたこともあります。また、地域密着の強みを活かし、買い物の際に。ご本人が住んでいた住宅の近辺を回って回想していただき、思い出を語っていただいたこともあります。	利用者の友人や親戚の方が来られた場合には、ゆっくり話ができるように配慮しています。ホーム玄関には、公衆電話を置いて利用者が友人や家族等へ電話をかけられる際には職員が支援しています。利用者が年賀状や手紙を書かれる場合には、職員が利用者の希望に添った支援をしています。また、利用者の住み慣れた地域周辺に買い物に出かけ喜ばれることもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>同じホーム内および隣接する小規模多機能ホームの利用者との交流を行い、フラワーアレンジメントや押し花教室を開催し、同じ目的をもって活動に取り組み、ともに何かを作る喜びを支援しています。年間行事計画の中に、合同行事をもちこむことによって、同じ季節感を味わいながら多数の利用者と交流を持てるように配慮しています。小さなホームではありますが、利用者同士の関係性を見極め、随時席替えをして対応しています。誕生月の利用者には、お誕生日会を開いて、手作りのおやつで共に祝いあっています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用終了後も、その後の経過を尋ねたり、相談をいただいたりといった関係を継続しています。退所後亡くなられたとのお知らせをいただき、ご仏前にお参りさせていただいた方があります。退所して有料老人ホームに移られた方のご家族に許可をいただき、面会に訪問させていただいたこともあります。また、ティアラから入院後胃ろうを増設され、療養型のホームに入られた方のご家族は、街中で職員を呼び止めてくださり「実は母が亡くなりました」とお知らせくださいました。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>プラン更新時には、まず本人の意向をきき、反映しています。本人の意向を尊重する上で、家族の協力が必要な場合には調整を図っています。また、本人の意向だけを尊重すると危険が伴う場合には、本人が納得できる説明を行うとともに、実現のための方向性を模索しています。認知症で意向を正確に伝えにくい方については、傾聴につとめ、その時の気持ちをくんだ対応を行っています。</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりの思いや意向を確認しながら、日常の支援をしています。利用者が言葉で表せない場合には表情や素振りで確認し、困難な場合には家族の協力を得て意向確認をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に、本人や家族の言葉としてこれまでの暮らしを教えてください。居宅や地域包括のケアマネージャーさんからも在宅時のプランなどの情報をいただいています。また、サービス利用中も世間話として昔のことや趣味のことなども話題にし、情報の肉付けを行っています。通院にご家族と同行して、ご本人の歴史についてお聞きしたこともあります。得られた情報は職員に周知してケアに活かせる工夫をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活のペースを把握し、快適に過ごしていただけるように努めています。朝が弱い方には他の方よりも遅くお声かけしたり、早朝に目覚める方については早く声かけしたりしています。 ADL低下でご自分で動きにくく介助が必要になった方にも、少しでもご本人に安楽に動作をしていただくために、香西園から機能訓練士に来てもらい、実地で研修を行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>会議を定期的を開くほかに書く担当者が中心となって本人の意向をきいたり、家族の面会時や電話などで積極的に会話をし、家族と共に介護計画を作成しています。連絡ノートや利用者ノートを活用することにより、職員同士でもアイデアや意見が言えるようにしています。</p> <p>今年度はご家族参加の調理行事を敬老会として実施し、ご本人の現状を見てください、意見をつることもできました。ご家族参加の行事は今後も継続して行いたいと考えています。</p>	<p>介護計画書は本人や家族の意向を確認し、サービス担当者会議を開いて作成しています。必要時には、カンファレンスに家族も参加してもらい相談しながら計画づくりをしています。介護計画書は職員間で共有し、ケアプラン実施表を活用して実施状況をチェックし記録に残しています。介護計画書作成時や見直し時にはアセスメントを行い、モニタリングをして利用者の変化を確認し状況に合わせた支援ができるように努めています。また、連絡ノートや利用者ノートを活用して、より効果的な支援ができるように努めています。介護計画書は利用者・家族に説明をして、了承サインをもらっています。</p>	<p>介護計画書の作成に当たっては今後も利用者一人ひとりの力や生活の状況を活かし、利用者・家族の希望に沿ったプラン作りを実行していく予定です。家族参加の行事を増やし、利用者と家族が楽しみながら触れ合える機会を設けることで、家族の希望も具体化され、より充実した介護計画書が作成できると考えています。取り組みの成果が期待されます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>申し送りや健康チェック表、利用者ノート、毎日のミーティングの場を利用しながら、会議以外でもいつでもアイデアや意見を記入することで情報を共有しています。ケアプランの実施表を設け、毎日のプラン実施状況を記載しています。また、毎日の個別の記録書式を見直し、毎日の変化を効率よく記録できるようになりました。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>併設している小規模多機能ホームと合同イベントを行うことにより、施設内においても「おでかけ」の感覚で小規模多機能まで出かけて楽しんでいます。ほかに、外出行事を定期的に行っています。糖尿病で運動の必要な方については、楽しんで続けていただけるよう、歩いたぶんだけシールを貼って楽しみをもって継続できるようにしています。食べることが困難になり、医療が必要となった方については、ご家族と共に受け入れ先を探し、ご本人の生活が継続できるようにしたケースもあります。また、拘縮予防の運動を個別に実施しています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域からボランティアでさまざまなレクリエーションの提供に来てもらっています。押し花、バルーンリハビリ、音楽療法、フラワーアレンジメント、ハーモニカ、三味線、傾聴ボランティア、折り紙など、いずれもボランティア側から申し出があり実施していただいています。地域の老人会からカラオケへの誘いを受け、定期的に地域の高齢者と共に楽しむ時間を設けています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の疾病や専門医による診察の必要性に応じて受診ができるようにしています。看護職を介在させることによって、医師への連携がスムーズに行えるようにしています。日常的な医療管理については、往診により受診して、いつでも相談や連携が行えるようにしています。他科に受診する際にも、主治医に紹介状を作成していただき、スムーズに受診できています。異常を早期発見することにもつながっています。精神科の往診にも来ていただき、精神面からの安定も図れています。	利用者・家族の希望に沿った医療機関を受診できるように支援しています。希望があればホームで提携している内科や精神科の往診も受けることができます。また、歯科、眼科、皮膚科、耳鼻科、整形外科などへの受診についても希望を尊重しています。受診については家族が同伴されますが、家族の都合がつかない場合には職員が付き添い支援をしています。付き添い支援を行った場合には、結果を電話やFAX等で家族に細やかに報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック表や申し送りを中心に、看護師と職員が連携をとるようにしています。少しの変化でもすぐに相談ができる体制をとることができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはすぐに利用者の日常の状態を病院に伝えられるように、ケア手順書や看護サマリーを整えており、適宜見直しをしています。入院時には定期的に本人を見舞い、不安を減らす支援をすると共に、家族とも連絡をとりあい、病院内での様子や変化、退院の見通しなどについて情報を得るようにしています。また、退院前にカンファレンスを持ってもらうようソーシャルワーカーなどに働きかけています。カンファレンスにはできるだけ看護職も参加するようにしています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合における対応に係る指針を設定しており、契約時から、終末期についてのかぞくに意向を確認し、書面で保存しています。本人の状態が変化した場合には、あらためて家族の意向をきくようにしています。看護職員を配置し、かかりつけ医との連携を強化しています。</p>	<p>終末期の支援については入居契約時に、重度化した場合の対応についての意向を確認し、書面に残しています。利用者が重度化した場合には終末期の支援について話し合い、意向に変更はないかどうかを確認しています。終末期をホームで過ごされる場合もありますが、結果的には入院されることが多く、当ホームでこれまでに終末期支援を行った事例はありません。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は、マニュアルを設けており、研修時に理解するとともに、実践的な訓練を行っています。事故発生の場合は事故報告書を作成し、原因究明をきちんと行うことによって、再発の防止に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を職員・利用者参加のもとに行い、避難方法や初期消火の方法を身につけています。地域の利用者家族や民生委員とも協力して訓練を行っています。 平成23年3月11日の東日本大震災を受け、香西会では拡大安全対策委員会を設け、大規模災害時に備えた対応マニュアルを整備し、備蓄を確保しました。	法人本部では非常災害時の対策を強化し、非常対策時の対応方法についてマニュアルを整備しています。ホームでは年に2回、利用者と共に防災避難訓練をしていますが、消防署の協力は得ていません。今年度は地域民生委員や近隣居住の利用者家族にも参加してもらい避難訓練の難しさや地域協力体制の重要性を実感してもらっています。非常災害時の備蓄については、対応マニュアルに添って水や食品を確保し、敷地内保管庫に配置しています。	今後、毎年1回はホームの防災避難訓練に消防署の立ち会いを要請することが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>命令・強制・否定ことばの禁止は理念にも掲げており、新人研修でその重要性を学ぶとともに、年2回の全職員を対象とした基礎研修でも再度徹底して人格尊重の教育を行っています。個人情報記載された書類は必ず鍵のかかる場所に保管し、廃棄する場合にはシュレッダーを通してあります。</p> <p>また、介護を行う際には羞恥心に配慮して実施するよう研修などで徹底しています。</p>	<p>法人内の新人研修、基礎研修を通じて職員が接遇について学べる環境を整えています。利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した対応ができるように、また一般常識を忘れず高齢者を先輩として敬う姿勢を持つように、職員を育成しています。新入職員については、3カ月の研修期間を終えて、一定のレベルに到達したことを十分確認してから重責を担う夜勤等に配置するようにしています。個人情報保護については、職員の就業規則に「秘密を保持する義務」として明記し、契約書を交わしています。個人情報を記載した書類やデータ等は厳重に保管するように職員間で徹底しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日着たい服や今したいことといった日常生活の細かい部分にも、本人の意向を反映するようにしています。自己決定が難しい利用者には、できるだけたくさんの選択肢が提示できるように、本人の好みやふだんの考え方などを把握しています。また、職員が共に答えを導く努力を行っています。行事で外食を食べる時などは、写真付きのメニューを用意して、ご本人の「わかる力」を活かして自己決定できる工夫をしています。 朝ゆっくりと起きる方には、遅い時間に朝食がとれるように時間を融通しています。自己決定と健康のバランスがとれるように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間などは、本人が守っている生活ペースを尊重しています。ご本人の希望を優先する努力をしていますが、こちらの都合で予定を変更する場合や、利用者のその時の気持ちに合わないことに対しては、本人の事前の納得が得られるよう、十分な説明を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<p>今までの暮らしの情報を把握したことにより、その時々状況にあった服を選んだり、本人がおしゃれ道具や服を使いやすい配置にしたり、いつでもおしゃれが楽しめるように配慮しています。</p> <p>また、家族には事前に行事や本人のおしゃれや整容に対する意向を伝え、家族とともに準備ができるようにしています。行きたい店でカットやパーマができるように援助したり、足の不自由な利用者が毛染めできるよう手配したりといった実践を行いました。</p> <p>整容のチェック表を新設し、爪切り、耳掃除、髭そりの間隔が空きすぎないように工夫ができました。今後は、高齢者に特有の耳毛や鼻毛を整える工夫をしていきたいと考えています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じ、おしぼりの準備、机拭き、食器拭き、片付けにかかわってもらうようにしています。食べることが苦痛にならないよう、本人のペースで食べていただき、食べやすい食事形態や食器の工夫を行っています。行事ごとに鍋パーティーやお好み焼きパーティーを行い、野菜嫌いの方も野菜をたくさん摂取していただいています。自分専用の食器を使うことやランチョンマットを自分で作ることで、食べる楽しみの演出も行っています。ご家族の敬老会が大好評で、利用者家族同士の横のつながりもできたので、今後も継続して行いたいと考えています。	副食はカロリーや塩分濃度に配慮したチルド食品を購入し、ホームで温めたり調理して、利用者一人ひとりの状況に合わせて刻んだり、ミキサー食にしたりしています。利用者は下ごしらえをしたり、机を拭いたり、おしぼりを用意したり、片づけをしたり、自分のできることで力を発揮しています。毎月おやつ作りをしたり、季節の良い時期にはゴーヤなどの野菜を育て、利用者と共に調理したりして楽しんでいます。行事の際に、職員と家族が協力してお好み焼き、鍋料理、パンケーキなどを作り、利用者に喜ばれています。時には外食に出かけ、好きなものを注文して楽しむこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>すべての利用者について食札などに食事形態や制限を記載し、誰がどのような形態で摂取するかが一目瞭然となるようにしている。水分も含め、食事摂取量は一覧できる記録表に残している。各利用者の好みを把握して、少しでも水分補給ができるよう努めている。夜間水分補給を自室で行う方については、ペットボトルでお茶を提供し、ボトルが常に清潔であるようにこまめに新品に交換しています。お風呂の前後には必ず水分をとっていただけるよう配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の利用者に応じて、できるだけ本人の力を活かして食後に口腔ケアが行えるようにしています。本人と共に職員が歯磨きをすることにより、たがいに口腔ケアに対する意識を高めています。本人の好みや能力、嚥下のちからに合わせて、それに応じたペーストやブラシ、口腔ケア専用の濡れティッシュを用意しています。希望者には、訪問歯科診療が受けられるように手配しています。口腔ケアについては、歯科医から適宜アドバイスをもらうことができます。今後は口腔内だけでなく、食後の口の周りの清潔や、舌苔へのとりくみなどにも努めたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>健康チェック表を活用し、日中夜間の状態に配慮し、かつ本人の身体的・精神的負担を考慮し、本人にふさわしい排泄の方法を家族とともに選定しています。</p> <p>オムツ利用の方については、その方の排泄の量や睡眠状態に応じて、吸収量の違うパッドをご家族と相談の上で用意していただいています。排泄一部介助の方については、起立や移乗、後始末など、ご本人ができることまで頑張ってくださいようになっています。</p>	<p>利用者一人ひとりの排泄時間を確認して声かけや介助をしています。利用者ができることは見守り、介助の必要な部分については声かけをして対応しています。おむつ類の使用については本人の意向を確認し、家族と相談しながらおむつの形態等を決めています。また、夜間のポータブルトイレ使用についても希望を尊重しながら対応しています。排泄後の清潔についても配慮し、必要な場合にはシャワー浴を行うなど利用者の状況に合わせて支援しています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>看護師と連携をとりながら、運動や水分補給を促し、便秘の予防につとめている。排便リズムは健康チェック表に記載して全職員が共有している。便秘時にはすぐに看護師に連携をはかり、投薬や摘便などの対応がスムーズに行えるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合う同士が同じ時間に入浴できる配慮や、ゆず風呂や菖蒲湯など季節感あふれる入浴時間を提供しており、今後は毎月の変り風呂を提供できないか検討中です。一方で入浴が高齢者にとって体力を消耗するものであることを全員が理解し、事前のバイタルチェックを欠かさないようにして、血圧や体温に異常がある場合は、看護師の判断により入浴を中止する場合があります。感染症の方は入浴順に配慮して、不公平が出ないように対応しています。	週3回の入浴を勧めています。入浴を好まれない場合や、医師の指示で回数が少なくなっている場合もあります。希望される場合や必要時には予定の日以外でも入浴ができます。ホームで入浴される場合や、同法人併設施設の浴室で気の合う利用者同士で入浴を楽しまれることもあります。季節により、柚子湯や菖蒲湯などを準備して喜ばれています。時間帯、入浴順番などは希望に添えるよう配慮しています。また同性介助の希望があれば対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	本人の疲れの程度や、本人から の希望に応じて、日中にも時間 を決めて臥床し、休息してもら えるようにしています。医師から 、内科的な疾患に対する負担軽 減の指示があった利用者には、 プランに体位変換を明記したう えで、褥瘡予防に努めながら安 楽に過ごせる支援をしています。 前日の睡眠時間も考慮に入れな がら、臥床する時間の長さを決 めています。夜間眠れない場合 や傾眠が強い場合には、専門 医にも相談できる体制ができて います。布団対応にするか、ベ ッドをご利用になるか、抱き 枕が必要かなど寝具についても 家族と共に考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用開始時に服薬説明書を提供してもらい、薬の目的や副作用、用法、用量について看護師を中心として全員が理解するよう努めています。服薬説明書と照合しながら配薬は看護師の手で確実にいき、介護職員はシフトによって服薬に関する役割を決め、必ず提供までに二人以上の職員がチェックできるように配慮しています。服薬チェック表で確実に服薬ができる支援を行っています。嚥下の状態により、薬剤師に依頼して、錠剤を粉砕してもらっています。苦味が服薬を困難にしている利用者については、甘味料をトロミに少し加えて飲みやすくする工夫もしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の能力に応じ、できる家事を割り振って毎日の日課として行ってもらっています。部屋の飾り付けも、こちらから頼むのではなく、職員が行うことで興味を持ってもらい、手伝ってもらっています。今後も、職員がすることを共に行うことで選択肢を増やしたいと考えています。 日々のかかわりのなかで明らかになってくる、ご本人の特技や希望もできるだけ取り入れ、プランの中の目標として取り組めるようにしていきたいと考えます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気やご本人の体調をみながら、近くの公園などに散歩に出かけています。職員が行う買い物の際に、利用者の同行を促し、街並みや商店の雰囲気を楽しんでもらっています。外出時には風邪などの感染症の予防にも配慮しています。定期的に外出行事を行い、レストラン、買物、花見、夏祭り、初詣などを楽しめるよう工夫しています。また、地域の行事などを利用し、外出の機会としています。	買物や近くの公園に出かけるなど、天候や体調に合わせて外出に取り組んでいます。寒い時期や猛暑の時期には外出の機会が少なくなっています。職員は季節の良い時期に外出の機会を増やすために、年間行事や地域の行事に合わせた外出支援に取り組んでいます。また、隣接する小規模多機能ホームで地域の利用者とは交流できる場を設けるなど、ホームを出て気分転換できるように配慮しています。	職員は利用者が外へ出て、ホーム以外の風景を楽しみ、地域の人にも出会えるような機会を増やせるように、来年度の行事や外出予定を企画しています。日頃外出の機会が少ない利用者が、週1回程度は外へ出て楽しむ機会ができるように、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人家族と相談の上、可能な方に対しては自己管理としています。自己管理が困難な方については、限度額を聞いておき、領収証をもって対応しています。行事の際のお小遣いや小銭は、できる限りご本人に持っていただくようにしています。少額の買い物はティアラ内でもできる楽しみを設けています。毎週火曜日に来る移動パン屋さんでの買い物に参加していただき、お金を支払う感覚を思い出していただいています。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個々の要望があれば対応するようにしています。本人ができる部分を見極めて、最小の援助を行うように心がけています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体を民家風にし、内部は木のあたたかみを感じられる空間としています。季節ごとに飾り付けを変え、季節感が伝わるように工夫しています。飾り付けの作成には、ご利用者様に参加していただき、つくる段階から季節感を味わっていただけるようにしています。利用者の写真や手芸作品、書道の作品を掲出し、親しみが持てるよう工夫しています。昼食時はテレビを止め、音楽を流して食事に集中できるように配慮するなどの工夫もしています。 窓際の共有スペースには、図書コーナーやマッサージコーナー、談話コーナーなどを設け、それぞれが好きな場所で好きなことをして過ごせる空間の演出もしています。	食堂・居間を中心にして玄関と居室への通路が4方向に設けられ、通路を挟んで居室が3部屋ずつ配置されています。出入りできるテラスが4カ所、玄関と小規模多機能ホームへの通路に繋がる入口が1カ所、合計6カ所の出入り口があり、非常時には避難できる通路として活用できます。利用者の居室側にある3カ所のコーナーを活用して図書コーナー、マッサージ器を置いたマッサージコーナー、ソファを置いた談話コーナーを設定して利用者に喜ばれています。トイレは広く3カ所にあり車イス対応となっています。共有空間には加湿器を置き、乾燥防止をしてインフルエンザ予防等に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間の中でも、自分の席、ソファ、台所、職員詰所、上記の各コーナーなど、自分が居たい場所に自由に移動してもらっています。それぞれにお気に入りの場所を確保して過ごしていただいています。本人専用のクッションなどを家族を通じて準備していただき、自分の居場所がわかる工夫もしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、早くなじめるように、長年愛用した家具の搬入などをお願いしています。個人の愛用品や、なじみの品は、その都度持ってきていただけるようにしています。ティアラに來られてからの写真はアルバムに整理し、いつでも思い出を振り返ることができるようにしています。 居室の表札には、季節を感じる折り紙作品を飾っています。	居室は広く設計され、窓からは外の景色を楽しむこともできます。居室には多目的に使える大きなクローゼットが備え付けられており、衣類など多くの収納ができます。室内はすっきりとまとめられています。持ちこまれた家具やイス、仏壇やぬいぐるみ、写真やカレンダー等によりその人らしい雰囲気と個性が伺えます。家族等が來られてもゆとりできるスペースがあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室掃除を共におこなうことにより、安全性を確かめながら居心地の良い空間をつくりだしています。居室やトイレがわからなくなる方については、名札やトイレの表示を大きく書き出し、本人が安心して使えるようにしています。			